

執筆者氏名	刊行書籍又は雑誌名	刊行書店名	巻, 頁 (西暦年号)
39) 渡邊 浩光 樋渡 信夫 木内 喜孝 桂島 良子 織内 竜生 豊田 隆謙	クローン病の直腸潰瘍の特徴と経過.	消化器内視鏡	10, 1303- 1308 (1998)
40) 渡邊 浩光 樋渡 信夫 木内 喜孝 野口 光徳 前川 浩樹 桂島 良子 豊田 隆謙	クローン病における細径超音波プローブによる腸管壁構造の検討.	Gastroenterol Endosc	40, 1156- 1163 (1998)
41) 樋渡 信夫	重症・難治性潰瘍性大腸炎の治療—ステロイドを中心に—.	Endoscopic Forum	14, 116-120 (1998)
42) 舟山 裕士 佐々木 巖 増田 高行 樋渡 信夫 松野 正紀	潰瘍性大腸炎における虫垂病変—手術標本からみた虫垂病変—.	胃と腸	33, 1213- 1218 (1998)
43) 織内 竜生 樋渡 信夫 豊田 隆謙	クローン病患者における血漿Glicentin動態の検討.	消化と吸収	21, 119-121 (1998)
44) 池端 敦 樋渡 信夫	アラキドン酸カスケードと炎症性腸疾患.	現代医療	31, 285-290 (1998)
45) Kinouchi,Y. Hiwatashi,N. Chida,M. Nagashima,F. Takagi,S. Maekawa,H. Toyota,T.	Telomere shortening in the colonic mucosa of patients with ulcerative colitis.	J Gastroenterol	33, 343-348 (1998)
46) Noguchi,M. Hiwatashi,N. Liu. Z. Toyata,T.	Secretion imbalance between tumour necrosis factor and its inhibitors in inflammatory bowel disease.	Gut	43, 203-209 (1998)
47) Noguchi,M. Hiwatashi,N. Hayakawa,T. Toyata,T.	Leukocyte removal filter-passed lymphocytes produce large amount of interleukin-4 in immunotherapy for inflammatory bowel disease role of bystander suppression.	Therapeutic Apheresis	2, 109-114 (1998)
48) 山田 美加 櫻井 俊弘 古川 尚志 松井 敏幸 八尾 恒良	Crohn病に対する経管経腸栄養療法の非緩解要因の検討.	日本大腸肛門病学会雑誌	51, 6-17 (1998)

執筆者氏名	刊行書籍又は雑誌名	刊行書店名	巻, 頁 (西暦年号)
49) 櫻井 俊弘 池田 圭祐 松井 敏幸 八尾 恒良	内視鏡的バルーン拡張術.	福岡大学医学紀要	25(1), 60-61 (1998)
50) 平井 郁仁 古川 尚志 櫻井 俊弘 松井 敏幸 八尾 恒良	Crohn病の長期経過例の病勢の変動とその要因について.	日本消化器病学会雑誌	95(6), 524-533(1998)
51) 櫻井 俊弘 八尾 恒良 古賀 有希 平井 郁仁 中道 美加 古川 尚志 松井 敏幸 佐藤 茂	大腸の炎症性疾患の診断に注腸X線検査は必要か-X線検査を重視する立場から.	胃と腸	33(5), 745-754(1998)
52) 松井 敏幸 古賀 有希 久部 高司 和田 陽子 櫻井 俊弘	シンポジウムII 炎症性腸疾患経過観察のための検査 4炎症性腸疾患の経過観察法と検査間隔.	日本大腸検査学会雑誌	15, 61-64 (1998)
53) 和田 陽子 真武 弘明 帆足 俊男 津田 純郎 櫻井 俊弘 松井 敏幸 八尾 恒良 岩下 明德	潰瘍性大腸炎における虫垂開口部病変.	胃と腸	33(9), 1205-1212 (1998)
54) 櫻井 俊弘	潰瘍性大腸炎-私の治療法⑤	IBDニュース	7, (1998)
55) 竹島 史直 牧山 和也	潰瘍性大腸炎-生活指導.	臨床と研究	75(8), 1772-1775 (1998)
56) Takasaki, Y. Tsukasaki, K. Jubashi, T. Tomonaga, M. Kamihira, S. Makiyama, K.	Systemic mastocytosis with extensive polypoid lesions in the intestines; Successful treatment with interferon - $\alpha$ .	Int Med	37(5), 484-488(1998)
57) 成澤林太郎 吉田 豊 棟方 昭博 朝倉 均 日比 紀文 多田 正大 牧山 和也 加藤 仁	潰瘍性大腸炎に対するウリナスタチン (MR-20) の用量比較試験.	薬理と治療	26(5) 845-855 (1998)

執筆者氏名	刊行書籍又は雑誌名	刊行書店名	巻, 頁 (西暦年号)
58) 牧山 和也 竹島 史直	《炎症性腸疾患と鑑別を要する腸疾患》 感染性腸炎.	内科	82 (2), 262-266 (1998)
59) 砂川 隆 金城 福則 岸本 邦弘 洲鎌理知子 与那嶺吉正 新村 政昇 外間 昭 金城 渚 大城 淳一 斎藤 厚	抗凝固療法中の大腸ポリペクトミー症例の検討.	Gastroenterol Endosc	40, 2159-2164 (1998)
60) 高橋 欽哉 外間 昭 高口 善信 久貝 雪野 金城 渚 金城 福則 斎藤 厚 伊佐 勉 白石 祐之 武藤 良弘	Megacolonを伴うS状結腸過長症に発症したS状結腸軸捻転の1例.	沖縄医学会雑誌	37, 42-45 (1998)
61) 大湾 朝尚 野崎 良一 武地 幹夫 片平 俊彦 高野 正博 金城 福則 斎藤 厚	Cap polyposisの1例.	日本大腸肛門病学会誌	51, 248-253 (1998)
62) 金城 福則 新村 政昇 大城 淳一	大腸癌.	老化と疾患	11, 119-204 (1998)
63) 豊見山良作 山里奈緒子 大見謝秀巨 小波津 寛 金城 福則 斎藤 厚	消化器診療の最近の話題.	沖縄赤十字病院医学雑誌	9, 5-9 (1998)
64) Yonamine, Y. Watanabe, M. Kinjo, F. Hibi, T.	Generation of MHC class I-restricted cytotoxic T cell lines and clones against colonic epithelial cells from ulcerative colitis.	J Clinical Immunology	19, 77-85 (1999)

執筆者氏名	刊行書籍又は雑誌名	刊行書店名	巻, 頁 (西暦年号)
65) Tomomasa,K. Hara,j. Matsumoto,T. Nakamura,S. Oshitani,N. Arakawa,T. Kitano,A. Nakatani,K. Kinjo, F Kuroki, T	Type 1 T-helper cell predominance in glauromas of Crohn's disease.	Gastroenterology	(印刷中)
66) Oshitani,N. Kitano,A. Kakazu,T. Hara,J. Adachi,K. Nakamura,S. Matsumoto,T. Kobayashi,K.	Functional diversity of infiltration macrophages in inflamed human colonic mucosa ulcerative colitis.	Clin Exp Pharmacol Physiol	25, 50-53 (1998)
67) Oshitani,N. Matsumoto,T. Moriyama,Y. Kudoh,S. Hirata,K. Kuroki,T.	Drug-induced pneumonitis caused by sulfamethoxazole, trimethoprim during treatment of Pneumocystis carinii pneumonia in a patient with refractory ulcerative colitis.	J Gastroenterol	33, 578-581 (1998)
68) Shiomi,S. Moriyama,Y. Oshitani,N. Matsumoto,T. Kuroki,T. Kawabe,J. Ochi,H. Okuyama,C.	A case of cap polyposis investigated by scintigraphy with human serum albumin labeled with Tc-99mDTPA.	Clin Nucl Med	23, 521-523 (1998)
69) 押谷 伸英 松本 誉之 荒川 哲男 黒木 哲夫	炎症性腸疾患.	臨床免疫	30, 220-225 (1998)
70) 松本 誉之 荒川 哲男 北野 厚生	難治性潰瘍性大腸炎の治療.	日本醫事新報	3887, 101 (1998)
71) 松本 誉之	炎症性腸疾患における単球・マクロファージ系異常.	臨床科学	34, 1612-1618 (1998)
72) 押谷 伸英 中村 志郎 松本 誉之 黒木 哲夫 北野 厚生	潰瘍性大腸炎の治療における大腸内視鏡の位置づけ.	日本大腸検査学会雑誌	5, 68-71 (1998)

執筆者氏名	刊行書籍又は雑誌名	刊行書店名	巻, 頁 (西暦年号)
73) 原 順一 松本 誉之 中村 志郎 嘉敷 朝政 押谷 伸英 荒川 哲男 小林 絢三 黒木 哲夫 北野 厚生 金城 福則 齋藤 厚	炎症性腸疾患の病変部における抗原提示細胞の動態に関する免疫組織化学的検討.	Progress in Medicine	18, 1823-1825 (1998)
74) 八木田旭邦 助川 寧	Hsp60と炎症性腸疾患.	臨床科学	34(12), 1645-1652 (1998)
75) 助川 寧 山口 博之 八木田旭邦 丸山 正二 佐藤 紀子 小野 稔 神谷 茂 跡見 裕	germ-freeマウスにおけるYersinia enterocolitica Hsp60マウス大腸炎の検討.	消化器と免疫	34, 92-94 (1997)
76) Yagita,A. Sukegawa,Y. Maruyama,S. Sato,N. Atomi,Y. Yamaguchi,H. Kamiya,S. Ihara,T. Sugamata,M.	Mouse colitis induced by Escherichia coli producing Yersinia enterocolitica 60-kilodalton heat-shock protein; light and electron microscopic study.	Digestive Disease and Science	44(2), 445-451 (1999)
77) Kono,S. Honjo,S. Todoroki,I. Nishiwaki,M. Hamada,H. Nishikawa,H. Koga,H. Ogawa,S. Nakagawa,K.	Glucose intolerance and adenomas of sigmoid colon in Japanese men (Japan).	Cancer Causes and Control	9, 441-446 (1998)
78) Yamada,K. Araki,S. Tamura,M. Sakai,I. Takahashi,Y. Kashihara,H. Kono,S	Relation of serum total cholesterol, serum triglycerides and fasting plasma glucose to colorectal carcinoma in situ.	Int J Epidemiol	27, 794-798 (1998)

執筆者氏名	刊行書籍又は雑誌名	刊行書店名	巻, 頁 (西暦年号)
79) 味岡 洋一 渡辺 英伸 西倉 健 桑原 明史 桑原 史郎 松田 圭二	形態計測とp53蛋白, Ki-67免疫染色からみた大腸腺腫と腺癌.	病理と臨床	16, 37-43 (1998)
80) 味岡 洋一 渡辺 英伸	大腸癌の前がん病変.	からだの科学	199, 30-33 (1998)
81) 味岡 洋一 佐藤 彩子 渡辺 英伸	免疫組織染色, 特集外科医のための分子生物学.	外科	60, 1539-1542 (1998)
82) Kuwabara,A. Watanabe,H. Ajioka,Y. Yasuda,K. Saito,H. Matsuda,K. Kijima,H. Hatakeyama,K.	Alteration of p53 clonality accompanying colorectal cancer progression.	Jpn J Res	89, 40-46 (1998)
83) Kuwabara,S., Ajioka,Y. Watanabe,H. Hitomi,J. Nishikura,K. Hatakeyama,K.	Heterogeneity of p53 mutational status in esophageal squamous cell carcinoma.	Jpn J Cancer Res	89, 405-410 (1998)
84) Iizuka,M. Nakagomi,O. Chiba,M. Ueda,S. Masamune,O.	Absence of virus in Crohn's disease.	Lancet	345(8943), 199 (1995)
85) Nakagomi,O. Iizuka,M.	Measles virus in Crohn's disease.	Lancet	345(8950), 660(1995)
86) 阿部 淳 帯刀 誠	炎症性腸疾患とスーパー抗原.	臨床免疫	30, 1662-1666 (1998)
87) 阿部 淳	感染症の病態におけるスーパー抗原の役割.	小児内科	31, 35-38 (1999)
88) 阿部 淳 竹田 多恵	Yersinia Pseudotuberculosis感染症.	日本臨床	(印刷中)
89) Abe,J. Ito,Y. Onimaru,M. Kohsaka,T. Tanimura,M. Takeda,T.	Cloning and characterization of a new enterotoxin-related superantigen produced by Staphylococcus aureus.	Microbial Pathogenesis.	(投稿中)

執筆者氏名	刊行書籍又は雑誌名	刊行書店名	巻, 頁 (西暦年号)
90) Iizasa,H. Harada,A. Mukaida,N. Nakashima,E. Yoshida,N. Matsushima,K.	Mice deficient in interleukin-1 receptor antagonist gene exhibited enhanced inflammatory reactions to various stimuli.	J Immunology.	(in submission)
91) 田村 和朗 李 冠華 指尾 宏子 山本 義弘 古山 順一	分子生物学的情報をもとにした家族性腺腫性ポリポシス家系の効果的マネージメント.	消化器癌の発生と進展	10, 201-204 (1998)
92) Ito,R. Tamura,K. Ashida,H. Nishiwaki,M. Nishioka,A. Yamamoto,Y. Furuyama,J. Utsunomiya,J.	Usefulness of K-ras gene mutation at codon12 in bile for diagnosing biliary strictures.	International J Oncology	12, 1019-1023 (1998)
93) 北洞 哲治 宇都宮利善 林 篤 田代 博一 大原 信	炎症性腸疾患の疫学《炎症性腸疾患診療のための基礎知識》	内科	82, 209-213 (1998)
94) 上野 義隆 箭頭 正徳 竹森 政樹 平井 栄一 仲村 洋 鈴木 紘一 小野田 登 林 篤 大原 信 北洞 哲治 岩男 泰 渡辺 守 日比 紀文	特異な胃病変を呈した小腸大腸型クローン病の1例.	Gastroenterol Endosc	40, 808-812 (1998)
95) 天野 國幹 天野 幹三	慢性関節リウマチの白血球除去療法—エジプト綿を使用して.	日本アフエレーシス学会雑誌	17(3), 207-211(1998)
96) Amano,K. Amano,K.	Filter leukapheresis for patients with ulcerative colitis clinical results and the possible mechanism.	Therapeutic Apheresis.	2(2), 97-100 (1998)

執筆者氏名	刊行書籍又は雑誌名	刊行書店名	巻, 頁 (西暦年号)
97) 板橋 道朗 亀岡 信悟 進藤 廣成 大森 尚文 山竹 正明 小川 真平 勝田 和信 藤田 竜一 曾山 鋼一	Fecal diversionを要したクローン病直腸肛門病変2例の経験.	東京女子医科大学雑誌	67 (3), 135-138 (1997)
98) 亀岡 信悟 板橋 道朗	超音波マニュアル 下部消化管.	消化器外科	21 (7), 1217- 1225 (1998)
99) 大石 英人 村田 順 亀岡 信悟	経皮的経食道胃管ドレナージ術, 穿刺用非破裂型バルーンカテーテルの開発とその将来性.	日本外科学会雑誌	99 (4), 275 (1998)
100) 亀岡 信悟 板橋 道朗	クローン病の外科治療.	消化器内視鏡	10 (1), 96- 100 (1998)
101) 島山 勝義	潰瘍性大腸炎に対する外科治療-特にW型回腸囊肛門吻合術とその術後成績について-	ENDOSCOPIC FORUM	14, 128-134 (1998)
102) 木村 英明 小金井一隆 篠崎 大 清水 大輔 福島 恒男	クローン病の瘻孔・膿瘍に対する手術例の検討.	JJPEN	20 (12), 1197-1199 (1998)
103) 藤井 正一 上田 倫夫 小金井一隆 松尾 恵五 石山 暁 小尾 芳郎 福島 恒男	潰瘍性大腸炎術後のJ型回腸囊のStaple Lineに発生した出血性潰瘍の1例	日本大腸肛門病学会誌	51 (8), 581-584 (1998)
104) 藤井 正一 小金井一隆 石山 暁 長堀 優 鬼頭 文彦 福島 恒男	直腸早期癌に対する括約筋温存直腸切除の可否.	消化器内視鏡	10 (11), 1499-1501 (1998)
105) 小金井一隆 福島 恒男	潰瘍性大腸炎・クローン病.	救急医学	22 (6), 681- 684 (1998)
106) 田中 邦哉 鬼頭 文彦 金村 栄秀 松尾 恵五 石山 暁 小尾 芳郎 福島 恒男	消化器手術後の創感染の臨床的検討.	日本臨床外科学会雑誌	59 (5), 1195-1202 (1998)



執筆者氏名	刊行書籍又は雑誌名	刊行書店名	巻, 頁 (西暦年号)
107) 斎藤 修治 長嶺弘太郎 小松 茂治 藤井 義郎 田中 邦哉 金村 栄秀 松尾 恵五 石山 暁 小尾 芳郎 鬼頭 文彦 福島 恒男 佐野 仁勇 中村 宣生 篠崎 大	潰瘍性大腸炎に合併した大腸癌の5例ならびに本邦報告203例の集計.	日本消化器病学会雑誌	95 (6) , 539-546 (1998)
108) 福島 恒男 小金井一隆 篠崎 大 木村 英明	癌患者の在宅栄養管理とNTSの意義.	JJPEN	20 (7) , 579-582 (1998)
109) 福島 恒男 松尾 恵五 小金井一隆 木村 英明	Crohn病に合併した肛門腔瘻の治療.	日本大腸肛門病学会誌	51 (7) , 496-499 (1998)

## 研究成果の刊行に関する一覧表

### 著 書

執筆者氏名	題 名	書名 (編集者名)	発行者名 (発行地名)	巻：頁 発行西暦年号
著書の編集 (監修)				
1) 下山 孝	消化器病学—第11回日本消化器病学会教育講演会記録		ファースト印刷 神戸	(1998)
2) 下山 孝	クローン病ってどんな病気		診断と治療社 東京	(1998)
著 書				
1) 下山 孝 里見 匡迪 福田 能啓 澤田 康史	炎症性腸疾患の白血球除去療法	消化器病学—第11回消化器病学会講演会記録 下山 孝 編	ファースト印刷 兵庫	163-175 (1998)
2) 澤田 康史 下山 孝	潰瘍性大腸炎に対する白血球系細胞除去療法の有効性の検討	消化器疾患最新の治療 戸田剛太郎, 杉町圭蔵, 中村孝司 編	南江堂 東京	27-37 (1998)
3) 小山 茂樹 馬場 忠雄	基本病変からみた鑑別診断—cobble stone appearance	炎症性腸疾患の臨床—診断から治療まで— 朝倉 均, 多田正大 編	日本メディカルセンター 東京	93-94 (1998)
4) 佐々木雅也 馬場 忠雄	難治性潰瘍性大腸炎に対する治療	炎症性腸疾患の臨床, 診断から治療まで 朝倉 均, 多田正大 編	日本メディカルセンター 東京	143-146 (1998)
5) 佐々木雅也 馬場 忠雄	非特異性小腸潰瘍症	消化器疾患最新の治療 戸田剛太郎, 杉町圭蔵, 中村孝司 編	南江堂 東京	222-224 (1998)
6) 棟方 昭博 石黒 陽	Crohn病の病態生理	最新内科学大系プログレス8 消化管疾患 井村裕夫, 尾形悦郎, 高久史麿, 垂井清一郎 編	中山書店 東京	301-309 (1997)
7) 棟方 昭博 中嶋 均	1. 潰瘍性大腸炎の内科的治療 a. 基本的な内科治療. 炎症性腸疾患の臨床	診断から治療まで 朝倉 均, 多田正大 編	日本メディカルセンター 東京	137-142 (1998)
8) 樋渡 信夫	潰瘍性大腸炎の診断基準	炎症性腸疾患の臨床, 診断から治療まで 朝倉 均, 多田正大 編	日本メディカルセンター 東京	18-23 (1998)
9) 樋渡 信夫	潰瘍性大腸炎	消化器疾患最新の治療 戸田剛太郎, 杉町圭蔵, 中村孝司 編	南江堂, 東京	172-177 (1998)
10) 樋渡 信夫	下痢	疾患別最新処方 矢崎義雄, 戸田剛太郎 編	日本メディカルセンター 東京	274-275 (1998)

執筆者氏名		題名	書名(編集者名)	発行者名(発行地名)	巻:頁 発行西暦年号
11)	櫻井 俊弘 八尾 恒良	消化器系治療薬 止痢・整腸剤	治療ガイド'98	文光堂	402-417 (1998)
12)	牧山 和也 竹島 史直	アフタ様病変	炎症性腸疾患の臨床 -診断から治療まで- 朝倉 均, 多田正大 編	日本メディカルセンター 東京	95-98 (1998)
13)	Matsumoto T.	Inflammatory bowel disease 4.Cellular immune responses in Crohn's disease : Cell-to- cell interaction between T cells and antigen-presenting cells and specific T cell acti- vation around non-caseating granuloma.	In. Bioregulation and its disorders in the gastrointestinal tract, Yoshikura T.,Arakawa T. Eds	Blackwell Science Tokyo	279-290 (1998)
14)	金城 福則	細菌性赤痢, 疫痢	今日の治療指針1998年 多賀須幸男, 尾形悦郎 編	医学書院 東京	160-161 (1998)
15)	金城 福則	在宅栄養療法	命ぐすい身ぐすい 沖縄県医師会編	沖縄県医師会共同組合 那覇	224-225 (1998)
16)	金城 福則	感染性腸炎	疾患別最新処方 矢崎義雄, 戸田剛太郎 編	日本メディカルセンター 東京	308-309 (1998)
17)	金城 福則	発刊によせて	ゆいまーる・クローン病患 者のための沖縄情報誌 金城福則 編	沖縄クローン病友の会 那覇	2 (1998)
18)	金城 福則	クローン病とは	ゆいまーる・クローン病患 者のための沖縄情報誌 金城福則 編	沖縄クローン病友の会 那覇	3-5 (1998)
19)	金城 福則	クローン病の治療	ゆいまーる・クローン病患 者のための沖縄情報誌 金城福則 編	沖縄クローン病友の会 那覇	6-10 (1998)
20)	金城 福則	細菌性食中毒	今日の治療指針1999年	医学書院 東京	172-173 (1999)
21)	中村 和利 児玉 邦子 山本 正治	潰瘍性大腸炎の疫学	難病の最前線 -疫学から臨床・ケアまで	南山堂 東京	(印刷中)
22)	酒井 靖夫 島山 勝義	2. 炎症性腸疾患	消化器外科学レビュー '98	総合医学社 東京	140-145 (1998)
23)	北洞 哲治	内科医から見た潰瘍性大腸炎の 病態と治療について	かながわクローン主催 第3回講演会記録,		3-21 (1998)
24)	北洞 哲治 鈴木 紘一 吉岡 政洋	第IV章 類縁疾患との鑑別診 断・抗生物質起因性腸炎	炎症性腸疾患の臨床, 診断 から治療まで 朝倉 均, 多田正大 編	日本メディカルセンター 東京	128-130 (1998)
25)	北洞 哲治	世代別にみた潰瘍性大腸炎病態 の臨床的研究	厚生省小児医療研究委託 費平成9年度研究報告書		33 (1998)

# 研究事業報告

# 特定疾患調査研究班課長挨拶要旨

## 1 (はじめに)

本日は、班会議が開催されましたところ、公私御多用のなかご参集頂き厚く御礼を申し上げます。また、日頃から、難病対策や難病研究の推進にご尽力いただいておりますことに感謝申し上げます。

## 2 (ポイントの提示)

さて、折角、研究者の皆様がお集まりでありますから、この機会に現在の厚生省の難病対策について3点お話ししたいと思います。その中で、先生方の研究が如何に待ち望まれているか、どのように行政のメカニズムを介して40万の患者にむすび付けられているか、ご理解を深めて頂けたらと思う次第であります。

最初に、今回行った難病対策の改革の考え方についてまずお話しします。

次に、平成8年度に再編成した研究班の3年を区切りとした最終年度に当たる平成10年度の研究班に期待する事項を述べたいと思います。

そして、最後に、平成11年に向けた研究班体制の概要について述べたいと思います。

## 3 (平成10年度難病対策の改革の考え方)

まず、難病対策は、昭和47年に制度発足以来、すでに四半世紀が過ぎ、今回、公衆衛生審議会のご意見を伺いながら、重症患者に重点をおいた難病対策の質的充実を図るため、思い切った対策の重点化・効率化を断行いたしました。この考え方は、最近の医療・医学の進歩によって、難病といっても生命予後の改善は全ての疾患に認められ、また、対症療法により軽症化してきた疾患がある一方で、治療抵抗性の重症患者が長期間の闘病生活をするようになってきました。この現状に対応する必要が喫緊の課題であることが考え方の1つです。それとともに、治療研究の原点に戻って、治療研究と調査研究を連携させ、治療研究を受けている患者さん方にも自分の疾患研究に協力しているという認識をしていただくというのが考え方の2つ目です。

各種報道では、医療費自己負担の問題のみが取り上げられていましたが、この考え方を十分ご理解の上、日頃の診療等に当たりこの考え方をご説明頂ければ幸いです。参考までに、平成10年予算では、難病対策は総額で42億(20%)増を確保し、その構成要素別では、研究費については5億(33%)増、地域保健福祉対策費は7億(800%)増、医療費の公費扶助は27億(15%)の伸びでありました。

## 4 平成10年度の研究班に期待する事項

さて、今回の難病対策の改革の考え方を述べてみました。

特に、この事業は、希少かつ難治性の疾患に医学研究の光を当てることがその本来目的でありますから、患者数5万人を越えようとする疾患をどうするのか、生命予後が劇的に改善されている疾患をどうするのか、治療抵抗性の患者をどうするのかといった新たな研究課題が生じております。特に、研究活動にマンネリ化が生じているという反省を踏まえ、平成8年に大きな再編成を行った現在の研究班では、今までの研究成果を踏まえて、この研究班ではどこまで解明できたか、また何が問題として残されているのか、それをどのようにして解明していこうとするのか、これらの点を3年間のまとめとして今年中に総括していただきたいと思っています。

また、現在、各臨床研究班には、班長先生を通じて重症度基準の作成をお願いしております。昨年もお話ししたように私たちは、基準の作成が出来るか否かも研究班の評価の重要なポイントになりうるものと思っておりますので、皆様のご協力を宜しくお願い申し上げます。

## 5 平成11年に向けた研究班体制の概要

最後に、平成11年に向けた研究班体制の概要に言及したいと思います。

科学技術の振興は、予算の伸びの抑制の中でも例外扱いされており、難病研究についても33%、5億円増が盛り込まれております。また、今年は重点研究として、研究の公募を行うといった新しい取り組みも行っています。

平成11年に向けて、今年度の評価の方法、再編成の方針については、現在、特定疾患対策懇談会において検討していただいております。大まかな方針については、10月頃にはお知らせできると思います。また、平成10年度の評価のための資料は、平成10年末頃を目途に提出していただく予定であり、最終の評価は平成11年2月9日に行われる予定となっております。その際には、班長会議の際にお伝えしたように、班長の先生が直接プレゼンテーションいただくことになっております。また、2月3日には合同の発表会をインターネット中継をいれて行う予定です。このように、様々な形で先生方にはご協力をお願いすることがありますので、宜しく御協力の程をお願いしたいと思います。

また、先ほどもお話ししたように、今年度は今までの研究をまとめていただき、次期につなげる大切な年であると思っております。各研究毎のまとめ、班全体でのまとめ、そして、今後の班が目指すべきの方向性について提言して頂ければと考えています。

最後になりましたが、私達は、難病対策の充実を目指して努力してゆく所存ではありますが、その基盤は先生方をお願いしている医学・医療の研究であり、患者さん方の切なる希望は治療法の開発であります。そこに至るまでの道は容易ではないと思いますが、一步でも研究が進み、患者さん方に福音がもたらされるように、また、ここにご参集の皆様のご健勝と研究の進捗を祈念して、ご挨拶とさせていただきます。有り難うございました。

## 厚生省特定疾患

# 難治性炎症性腸管障害調査研究班

## 平成10年度第1回総会プログラム

期日：平成10年7月30日(木)、31日(金)

場所：神戸ポートピアホテル(南館16階 レインボーの間)

(敬称略)

平成10年7月30日(木)

開 会 (09:00)

I. 班長挨拶・研究の進め方

班長：下山 孝

II. 厚生省保健医療局エイズ疾病対策課挨拶

III. 研究報告

1. プロジェクト研究 (09:10～09:20)

「UC患者とCD患者のデータベースの拡張・充実」

責任者：名川弘一

IBD患者データベースの拡張

○名川弘一、石神浩徳、横山 正、武藤徹一郎(東大1外)

2. プロジェクト研究 (09:20～09:30)

「UC治療法としての白血球除去療法の確立」

責任者：下山 孝

UCに対する白血球除去療法の経過報告

○澤田康史(兵庫医大4内)

3. プロジェクト研究 (09:30～10:20)

「UCとCDの病因としての腸管微生物検索」

責任者：下山 孝

Hsp60によるIBDモデルにおける抗原菌種の差異

－Yersinia enterocoliticaとE.coliの差－

八木田旭邦(近畿大腫瘍免疫等研究所), ○助川 寧(杏林大1外)

Crohn病と細菌性スーパー抗原毒素についての検討

○阿部 淳(国立小児医療研究センター, 小児生態), 帯刀 誠, 星野恵津夫(帝京大内),

松本馨之(大阪市大3内), 高添正和(社保中央総合病院内)

Crohn病発症の引き金としての麻疹ウイルス

中込 治(秋田大微生物), ○飯塚政弘, 千葉満郎(秋田大1内)

Sodium Butyrateによる腸管上皮細胞内転写因子発現制御について

○安藤 朗, 岡本敏彦, 伊原隆史, 荒木克夫, 辻川知之, 佐々木雅也, 藤山佳秀, 馬場忠雄(滋賀医大2内)

抗菌薬投与によるヒト大腸粘膜菌叢の変動

岡村 登, 千田俊雄, 小林久美子, 菊池綾乃(東京医歯大・医・保健衛生), 岡村 孝(東京都立大塚病院外)

#### 4. プロジェクト研究 (10:20~11:20)

「CDの栄養療法における食事脂肪の影響の検討」

責任者：馬場忠雄

活動期クローン病に対するエレンタール® 単独と脂肪製剤併用エレンタール群の治療効果の比較検討

○馬場忠雄(滋賀医大2内), 樋渡信夫(東北大3内), 高添正和(社保中央総合病院内),  
松本馨之(大阪市大3内), 福田能啓(兵庫医大4内), 櫻井俊弘(福岡大筑紫病院消化器)

クローン病の維持療法としての間欠的Full ED療法

松本馨之, ○中村志郎, 原順一, 押谷伸英(大阪市大3内)

TNBS腸炎に対するMCT含有EDの治療効果に関する検討

松本馨之, ○神野良男, 嘉数朝政, 原 順一, 中村志郎, 押谷伸英(大阪市大3内)

#### 5. プロジェクト研究 (11:20~12:20)

「現行のUCの診断基準の改訂」

「現行のUCの治療指針の改訂」

責任者：棟方昭博

潰瘍性大腸炎の重症度分類

○棟方昭博(弘前大1内)

潰瘍性大腸炎の治療指針の改訂

○棟方昭博(弘前大1内)

#### 昼食・幹事会 (12:20~13:30)

#### 6. プロジェクト研究 (13:30~14:30)

「現行のCDの診断基準の改訂」

責任者：樋渡信夫

クローン病の重症度分類

○樋渡信夫(東北大3内)

#### 7. プロジェクト研究 (14:30~15:40)

「UC患者とCD患者のQOLを高める外科治療法」

責任者：名川弘一

潰瘍性大腸炎 pouch operation 後出産例の経過と問題点

○小金井一隆, 篠崎 大, 福島恒男(横浜市立市民病院外), 杉田 昭(横浜市大2外),

潰瘍性大腸炎術後排便機能に関する検討—手術時期および直腸の炎症程度からみて—

亀岡信悟, 鈴木 衛, ○板橋通朗, 寺本穂波(東京女子医大2外)

Eosinophil cationic proteinの腸管平滑筋への作用

牧山和也, ○竹島史直(長崎大光学医療診療部), 谷山紘太郎(長崎大第2薬理)

ラットTNBS惹起性大腸炎モデルにおける大腸運動：収縮と内容輸送の同時測定

松枝 啓, ○正田良介, 関川憲一郎, 大和 滋, 梅田典嗣(国立国際医療センター消化器)

Barostat SystemによるW型回腸囊内圧測定

早見守仁, 長谷川潤, 須田武保, 酒井靖夫, 畠山勝義(新潟大1外)

切除標本からみた潰瘍性大腸炎における虫垂病変

○舟山裕士, 佐々木 巖, 内藤広郎, 福島浩平, 柴田 近, 小川 仁, 佐藤 俊,



上野達也, 橋本明彦, 北山 卓 (東北大1外), 樋渡信夫 (東北大3内), 増田高行 (東北大病理)  
Crohn病痔瘻に対するseton法の長期予後

○杉田 昭, 原田博文(横浜市大浦舟病院2外), 小金井一隆, 篠崎 大, 福島恒男(横浜市立市民病院外)

#### 8. プロジェクト研究 (15:40~15:50)

「Dysplasia発生をUCで検討しガンのサーベイランス実現のための方途を確立する」

責任者: 西倉 健

潰瘍性大腸炎における大腸癌の発生-形態とp53異常からみた検討-2

○高久秀哉, 味岡洋一, 渡辺英伸, 西倉 健, 山田聡志 (新潟大1病理)

事務局連絡 (15:50~16:20)

厚生省特定疾患重点研究事業

「炎症性腸疾患に対する白血球除去・吸着療法の効果に関する多施設共同研究」幹事会 (16:30~17:30)

懇親会 (Hp meets IBD welcome partyと合同) (18:00~20:00)

平成10年7月31日(金)

#### 9. プロジェクト研究 (09:00~09:20)

「CDの病因としての食事因子の解析」

責任者: 古野純典

クローン病の患者対照研究

○古野純典 (九大公衆衛生)

潰瘍性大腸炎の疫学調査-追跡調査より-

○北洞哲治 (国立大蔵病院臨床研究部・消化器), 宇都宮利善, (国立大蔵病院臨床研究部),

林 篤, 大原 信, 田代博一 (国立大蔵病院消化器), 横山巽子, 今場清子 (国立大蔵病院臨床研究部)

#### 10. プロジェクト研究 (09:20~09:40)

「UC患者とCD患者のQOLの検討」

責任者: 櫻井俊弘

クローン病患者のQuality of life

○櫻井俊弘, 長浜 孝, 八尾恒良 (福岡大筑紫病院消化器), 福原俊一 (東大大学院医学系研究科),

岩男 泰 (慶應大内)

質的分析法によるクローン病患者のQOLの検討

○橋本英樹 (帝京大2内), 福原俊一 (東大大学院医学系研究科), 櫻井俊弘 (福岡大筑紫病院消化器),

岩男 泰 (慶應大内), 渡辺 守 (慶應がんセンター), 日比紀文 (慶應大内, 慶應がんセンター)

#### 11. プロジェクト研究 (09:40~10:00)

「UCとCDの病因としての遺伝子の検討」

責任者: 田村和朗

炎症性腸疾患の遺伝学的調査と原因遺伝子の検討

○田村和朗, 指尾宏子, 古山順一 (兵庫医大遺伝)

IL-12p40transgenic mouseの作製とDDS腸炎モデル

樋渡信夫, ○相原裕之 (東北大3内), 宮崎純一 (阪大栄養)

## 12. プロジェクト研究 (10:00~11:00)

「UCとCDの病因・病態と免疫異常の関係解明」

責任者：日比紀文

T細胞受容体 $\alpha$ 鎖欠損マウスにおける慢性大腸炎の発症と粘膜IL-7機構の異常

日比紀文 (慶應大内, 慶應がんセンター), ○矢島知治, 一松 収, 岩男 泰 (慶應大内),  
石川博通 (慶應大微生物), 渡辺 守 (慶應がんセンター)

ラットにおける大腸ムチンの免疫効果

○日野田裕治, 後藤啓, 今井浩三 (札幌医大I内)

Listeria monocytogenesとIBD

○千葉満郎, 正宗 研 (秋田大I内), 福島恒男, 小金井一隆 (横浜市立市民病院外),  
井上 智 (国立感染症研究所), 中村宜生 (横浜市立市民病院病理)

潰瘍性大腸炎患者の粘膜固有層リンパ球より樹立した細胞障害性Tリンパ球の検討

○砂川 隆, 金城福則, 与那嶺吉正, 川上和義, 斎藤 厚 (琉球大I内),  
渡辺 守 (慶應がんセンター), 日比紀文 (慶應大内, 慶應がんセンター)

潰瘍性大腸炎末梢血活性化血小板のROM産生に与える影響

○杉村一仁, 鈴木恒治, 長谷川勝彦, 朝倉 均 (新潟大3内)

クローン病の腸管局所における $\gamma\delta$ T細胞に関する検討

棟方昭博, ○石黒 陽, 山形和史, 金澤 洋 (弘前大I内)

閉会の辞 (11:00)

班長：下山 孝

## 厚生省特定疾患「難治性炎症性腸管障害」調査研究班

### 平成10年度第1回総会出席者名簿

(参加125名) (敬省略)

班 長：下山 孝

班 員：馬場忠雄 (滋賀医大2内)

棟方昭博 (弘前大I内)

日比紀文 (慶應大内科)

樋渡信夫 (東北大3内)

櫻井俊弘 (福岡大筑紫病院消化器科)

特別研究員：田村和朗 (兵庫医大遺伝)

研究協力者：西倉 健 (新潟大1病理)

杉村一仁 (新潟大3内)

牧山和也 (長崎大光学診療部)

金城福則 (琉球大1内)

松本譽之 (大阪市大3内)

古野純典 (九州大公衆衛生)

高添正和 (社会保険中央総合病院内科)

八木田旭邦 (近畿大学腫瘍免疫等研究所)

岡村 登 (東京医科歯科大学保健衛生)

他班よりの研究協力者：

名川弘一 (東京大1外)

中込 治 (秋田大微生物)

阿部 淳 (国立小児病院小児生態研究部)

評価委員：寺田雅昭 (国立がんセンター)

渡辺英伸 (新潟大1病理)

森岡泰彦 (日本赤十字医療センター)

朝倉 均 (新潟大3内)

他：日野田裕治, 後藤 啓 (札幌大1内)

蘆田知史 (旭川医大3内)

福田真作, 坂本十一, 山形和史, 金澤浩介, 吉村徹郎, 石黒 陽 (弘前大1内)

飯塚政弘, 千葉満郎 (秋田大1内)      早川知彦, 相原裕之 (東北大3内)  
 舟山裕士, 佐々木巖 (東北大1外)      名倉宏 (東北大病理)  
 澤田俊夫, 茂木健太 (群馬県立がんセンター)  
 矢部諭, 藤森健二 (埼玉医大3内)      鈴木康夫, 吉村直樹 (千葉大2内)  
 帯刀誠, 橋本英樹 (帝京大内科)      武藤徹一郎, 横山正 (東京大1外)  
 岩男泰, 一松収, 矢島知治 (慶應大内科)  
 渡辺守 (慶應がんセンター)      正田良介 (国立国際医療センター)  
 亀岡信悟, 板橋道朗 (東京女子医大2外)  
 飯塚文瑛, 鶴見直子 (東京女子医大消化器)  
 北洞哲治 (国立大蔵病院)      助川寧 (杏林大1外)  
 高橋信一 (杏林大3内)      杉田昭 (横浜市大浦舟病院2外)  
 福島恒男, 小金井一隆 (横浜市民病院外科)  
 久保克浩 (山梨医大1内)      出張玲子, 高久秀哉 (新潟大1病理)  
 畠山勝義, 須田武保, 早見守仁 (新潟大1外)  
 馬場正三 (浜松医大2外)  
 藤井久男, 石川博文, 畑倫明, 杉森志穂 (奈良医大1外)  
 安藤朗, 佐々木雅也, 辻川知之 (滋賀医大2内)  
 中村志郎, 澤禎徳, 神野良男, 押谷伸英, 原順一 (大阪市大3内)  
 北野厚生 (大阪市立住吉市民病院)      宮本博行 (和歌山県赤十字血液センター)  
 水野元夫 (岡山大1内)      天野国幹 (広島クリニック観音)  
 岡久稔也 (徳島大2内)  
 長浜孝, 宇野博之, 古賀有希 (福岡大筑紫病院内科)  
 竹島史直 (長崎大光学医療診療部)      守田則一 (大腸肛門病センター高野病院)  
 南寛之 (宮崎医科大2内)      砂川隆, 与那嶺吉正 (琉球大1内)  
 赤羽修, 星野二郎 (生化学工業)      西川正彦, 鈴木学 (味の素)  
 藤巻洋人, 後藤紀峰 (呉羽化学)      竹中良則 (旭メディカル)  
 渡部晃広, 藤井克典 (日清キョーリン)      浦野敬治 (日本抗体研究所)  
 石澤祐介 (ヘキスト・マリオン・ルセル)      米村慎二 (神戸ポートピアホテル)  
 西上隆之 (兵庫医大2病理)      戸澤辰雄 (兵庫医大中検)  
 里見匡迪, 田村和民, 福田能啓, 山村誠, 日笠豊, 澤田康史, 福井信,  
 松村徹也, 堀和敏, 指尾宏子, 馬場裕子 (兵庫医大4内)

事務局：宮本佳美, 長瀬和子, 名田記子, 田村裕子, 国井智子

厚生省特定疾患

難治性炎症性腸管障害調査研究班

平成10年度第2回総会プログラム

期日：平成11年1月21日(休)，22日(金)

場所：味の素(株)本社ビル

(敬称略)

平成11年1月21日(休)

幹事会 (12:00～13:00)

開 会 (13:00)

I. 班長挨拶・研究の進め方 班 長：下山 孝

II. 厚生省保健医療局エイズ疾病対策課挨拶

III. 研究報告

1. プロジェクト研究 (13:10～13:20)

「UCとCDの患者データベースの拡張・充実」

責任者：名川弘一

IBD患者のデータベース拡張

○名川弘一，石神浩徳，横山 正，武藤徹一郎(東大腫瘍外)

2. プロジェクト研究 (13:20～13:50)

「CDの病因としての食事因子の解析」

責任者：古野純典

クローン病の患者対照研究

○古野純典(九大公衆衛生)

Crohn病患者の発症前の食生活調査

○高添正和，三浦恭定(社保中央総合病院内)，斉藤恵子(社保中央総合病院栄養)，

川島由起子，渡辺早苗，奥田理恵，納谷和余，中村丁次(女子栄養大臨床栄養)

潰瘍性大腸炎の疫学的研究：追跡調査

○北洞哲治(国立大蔵病院臨床研究部・消化器)，宇都宮利善，横山巽子，今場清子，

小野ひろみ(国立大蔵病院臨床研究部)，林 篤，大原 信，田代博一(国立大蔵病院消化器)

3. プロジェクト研究 (13:50～14:20)

「UC患者とCD患者のQOLの検討」

責任者：櫻井俊弘

Crohn病患者のQuality of life -第2報-

○櫻井俊弘，長浜 孝，八尾恒良(福岡大筑紫病院消化器)，福原俊一(東大大学院医学系内)，